

学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

果樹園芸科

笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

- 【 豊かな人間性 】
- 【 課題解決能力 】
- 【 社会性・指導性 】
- 【 社会への参画意識 】

1年次の目標

果樹園芸に関する基礎・基本的学習と技能の習得

2年次の目標

果樹園芸に関する基礎基本をもとに幅広い専門知識と技能の定着

3年次の目標

果樹園芸の専門的技術の活用から経営に関する知識の習得
問題解決能力の定着と進路実現

学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

本学科は、果樹や園芸に関する知識・技能を習得し、峡東地域の基礎産業を担うスペシャリストの育成にあります。また農産物の海外輸出などグローバル化社会に対応した視点が求められることから、多くの体験プログラムが用意されています。進路では、就職はもちろん専門学校や4年制大学への進学実績もあり、個々の生徒にあった指導を職員が一丸となって行い進路実現を果たします。将来を見据え目的意識をしっかりと持って何事にも意欲的に取り組んでください。

	教科	科目	
1	国語	国語総合	
2	地理歴史	世界史 A	
3	数学	数学 I	
4	理科	科学と人間生活	
5	保健体育	体育	
6	保健体育	保健	
7	外国語	コミュニケーション英語 I	
8	外国語	英語表現 I	
9	農業	農業と環境	
10	農業	農業情報処理	
11	農業	果樹	
12	農業	植物バイオテクノロジー	
13	芸術	音楽 I	選択
14	芸術	美術 I	選択
15	芸術	書道 I	選択

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	国語 国語総合 (現代文)		単位	2	履修区分	必修・必修・選択	
対象学年・類型・コース	1年 食品化学科・果樹園芸科						
使用教科書	『新編 国語総合』 (大修館書店)						
副教材	新国語便覧 (第一学習社) ・ 常用漢字パーフェクトクリア (尚文出版)						
目標とする 生徒の将来像	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
評価の観点	① 【関心・意欲・態度】 国語への関心を深め、国語を尊重して向上を図ろうとしているか。 ② 【話す・聞く能力】 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりしているか。 ③ 【書く能力】 目的に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。 ④ 【読む能力】 文章を的確に読み取り、自分の考えを深め、発展させているか。 ⑤ 【知識・理解】 言語の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法 ※テスト=定期考査含	自己 評価	
1 学期	第1回定期試験 5/21~	・「ワンダフル・プラネット」	・本文と写真を対比させながら、両者の関係を読み取り、筆者の感動がどこにあるのかを理解する。 ・自身の「センス・オブ・ワンダー」の体験を他者に明確に紹介する。		① 授業態度・ノート ② 話し合い・発表 ③ 作文 ④ テスト ⑤ 漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C	
	第2回定期試験 7/3~	・小説「羅生門」	・登場人物の心理の変化を捉え、その心理や行動から人間についての洞察を深める。 ・登場人物の心理を読み取る力。自身の意見を明確に述べる力。		① 授業態度・ノート ② 話し合い・発表 ③ 感想文 ④ テスト ⑤ 漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C	
2 学期	第3回定期試験 10/2~	・短歌と俳句 ・古文「児のそら寝」	・作品を深く味わう。・鑑賞力 ・創作する。・表現力、創造力 ・古文に親しみをもち、話のおもしろさを理解し、正確に音読する。		① 授業態度・ノート ② 創作作品・音読 ③ 相互評価 ④ テスト ⑤ 漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C	
	第4回定期試験 12/4~	・評論「水の東西」 ・詩 1編	・論理の展開や要旨、筆者の主張を的確にとらえる。 ・作品を深く味わう。		① 授業態度・ノート ② 話し合い・発表 ③ 意見文 ④ テスト ⑤ 漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C	
3 学期	第5回定期試験 2/22~	・漢文「訓読のきまり」 「訓読に親しむ」 ・漢文「唐詩」	・漢文に親しみをもち、訓読のきまりを理解し、正確に音読することができる。 ・作品世界の情景・心情を的確にとらえ、深く味わい、鑑賞する。		① 授業態度・ノート ② 音読 ③ 鑑賞文 ④ テスト ⑤ 漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C	
検定資格 (時期)		漢字能力検定を年に3回、校内で受検できる機会を用意する。(8月・12月・2月) 受検費用は級に応じて2000~4000円) 2級に合格した場合は国語に1単位増単できる。					
履修にあたって		1時間1時間を大切に、読む力・考える力をつけていきましょう。 毎週、漢字テストを行うので、丁寧に、投げ出さず、全回合格を目指しましょう! 週間課題での問題集演習を習慣にしましょう。					

教科・科目	地理歴史・世界史A	単位数	2	必修	必修	選択
学年・系列・コース	1年全学科全クラス					
使用教科書	世界史A (実教出版)	副教材	アカデミア世界史			
目標とする生徒の将来像	近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。現代の諸課題を歴史的観点から考察し、歴史的思考を培う。国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
評価の観点	①授業への関心、意欲、態度および、授業内容を日本の歴史と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現していること。(10%) ②諸資料の収集、有用な情報の選択、読み取り、図表などへのまとめ。(10%) ③近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。(80%)					
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力			評価の観点	
1 学期	第1章 ユーラシアの諸文明の特質 1 西アジア世界・イスラーム世界 2 ヨーロッパ世界 3 南アジア世界・東南アジア世界 4 東アジア世界・内陸アジア世界 第2章 ユーラシアの交流 1 海と陸の交流 2 モンゴル帝国と東西の交流 3 ヨーロッパ商業圏と東アジア海域の発展 第3章 一体化に向かう世界 1 世界の一体化の第一歩 2 ルネサンスと宗教改革 3 ヨーロッパの主権国家体制	・西アジア世界・イスラーム世界の特質の把握 ・ヨーロッパの風土と諸民族、ヨーロッパ世界の特質の把握。南アジア・東南アジアの風土と諸民族、南アジア世界・東南アジア世界の特質の把握。 ・東アジア・内陸アジアの風土と諸民族、国際体制、日本を含む東アジア世界の特質の把握。 ・ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長の把握。 ・モンゴル帝国の拡大とユーラシアの一体化の把握。 ・ヨーロッパにおける商業圏の発展や、日本を含む東アジア海域の交流圏の成長の把握。 ・大航海時代の世界の一体化への動きの理解。ヨーロッパの主権国家体制の成立への理解。			①②③	
	第4章 アジアの繁栄と世界 1 アジアの繁栄 2 世界経済体制の形成 第5章 19世紀の世界の一体化と日本 1 産業革命と工業化社会の成立 2 アメリカ独立戦争 3 フランス革命とナポレオン戦争 第6章 二つの世界大戦 1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦	・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解する。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応を扱い、19世紀の世界の一体化とその特質を理解する。 ・輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20世紀という時代の特徴を人類の視野から把握できる。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察できる。			①②③	
3 学期	第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊 第8章 現代の世界 1 統合へ向かうヨーロッパ 2 旧ソ連・東ヨーロッパ諸国の動向 3 アメリカの戦争と世界同時不況 4 西アジアの混迷 5 南アジア・東南アジアの動き 6 巨大化する中国と東アジアの変動 7 ラテンアメリカ・アフリカ・オセアニアの情勢 終章 持続可能な世界をめざして 1 巨大技術と人間 2 人が人らしく生きるために 3 なお続く紛争	・第二次世界大戦後の世界が抱える問題などについて考察できる。 ・1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解し、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認めあいながら共存する方向などについて考察する。 ・原子力の利用、情報科学など現代の科学技術の人類への寄与と課題、移民や女性・子どもなど様々な人々に関わる問題、地域紛争の原因とその歴史的背景などを追究し、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察するとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付くことができる。			①②③	
	検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし				
履修にあたって	常になぜ・どうして、こういうことが起こったのだろうか。目的は何だったのかという疑問を持ち、いろいろな方法を使って考え、自分の意見や考え方を持つことができるようになることを期待します。					

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		数学 I		単位	3	履修区分	○ 必修 ・必修 ・選択
対象学年・類型・コース		1年果樹園芸科 食品化学科					
使用教科書		東京書籍 改定 新 数学 I					
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算力と、基本的な問題解決能力が身につけている ・数学を利用して、身近な事象を考察できる力が身につけている 					
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査による評価80点分 ・授業への取り組みの姿勢、課題の提出状況、小テストの結果等を考慮した20点分 					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第1回定期試験	プレリユード	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの復習により基本的な計算力を身につける ・高校での学習内容が理解できるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学までの学習内容が身につけているか ・定期試験 ・課題や小テスト 			
	第2回定期試験	第1章 数と式 1節 整式	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の基本事項の理解を深め、加法・減法・乗法ができる ・中学で学習していない展開について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の計算の基本事項が身につけているか ・定期試験 ・課題や小テスト 			
2 学期	第3回定期試験	第2節 実数 第3節 方程式と不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・根号を含む計算について基本的な計算ができる ・1次方程式、1次不等式の意味を理解し、解くことができる ・1次不等式を利用して、身近な問題を解くことができる ・2次方程式を解くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算力が身につく、発展的な問題にも積極的に取り組んでいるか ・連立不等式の意味を理解しているか ・定期試験 ・課題や小テスト 			
	第4回定期試験	第2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の意味を知り、値が計算できる ・2次関数のグラフをかける ・2次関数の式を変形し、頂点の座標を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学で学習したことが身につけているか ・2次関数のグラフを書くことができるか ・平方完成ができるか ・定期試験 ・課題や小テスト 			
3 学期	第5回定期試験	2節 2次関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフを描き、最大値最小値を求めることができる ・2次関数のグラフを2次方程式の関係で理解できる ・2次関数のグラフと2次不等式の関係で理解し、2次不等式を解くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・最大値・最小値を求めることができるか ・2次関数のグラフと2次方程式、2次不等式の関係で理解しているか ・定期試験 ・課題や小テスト 			
検定資格(時期)		数学検定					
履修にあたって		<p>数学に苦手意識を持っている生徒も多いと思います。高校の数学はすべての内容がつながっていますので、しっかり復習をしましょう。基礎的な内容から取り組む予定ですので、一緒に基本的なことから順に学習していきましょう。基本的な計算は何度も繰り返し行うことによって身につきますので、しっかり取り組みましょう。</p>					

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		理科 科学と人間生活	単位	2	履修区分	必修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース		1年農業科・総合学科						
使用教科書		東京書籍 『科学と人間生活』						
目標とする生徒の将来像		身近な事物・現象を考えるために必要な科学的素養を高める。						
評価の観点		① 【関心・意欲・態度】 身近な事物・現象について関心をもち、意欲的に考えとともに、科学的な見方や考え方を身につける。 ② 【思考・判断・表現】 身近な事物・現象を科学的に考え、的確に説明する。 ③ 【観察・実験の技能】 身近な事物・現象について観察・実験の基本操作を習得する。 ④ 【知識・理解】 身近な事物・現象について、基本的な知識を身につける。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法		自己評価	
1 学期	第1回定期試験	生物と光 1. 植物の生育と光 2. 光シグナルと生物 3. ヒトの視覚と光	・光合成を理解する。 ・呼吸を理解する。 ・ヒトの眼の構造を理解する。		①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート		A B C A B C A B C A B C	
	第2回定期試験	微生物とその利用 1. さまざまな微生物 2. 微生物と人間生活のかわり 材料とその再利用 1. プラスチック 2. 金属	・食品中、空气中、土中、水中の微生物を観察する。 ・発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。 ・プラスチックや金属の性質の理解を深める。		①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート		A B C A B C A B C A B C	
2 学期	第3回定期試験	3. 資源の再利用 衣料と食品 1. 衣料 2. 食品 光の性質とその利用 1. 目に見える光の世界 2. 光の進み方とその基本的性質	・繊維の分類と利用について理解する。 ・食品を構成する元素と組成を理解する。 ・物質の屈折率と光の速さとの関係を理解する。		①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート		A B C A B C A B C A B C	
	第4回定期試験	3. 見えない光とその応用 熱の性質とその利用 1. 熱とは何か 2. 熱と人間生活 身近な天体と太陽系における地球 1. 天体が刻む「時」 2. 太陽系の構造	・電磁波を理解する。 ・物質の三態変化や熱膨張、及び絶対温度について理解する。 ・身近なエネルギーについて具体例とともに理解する。 ・1年を通じた太陽高度、日照時間の変化を天球から理解する。		①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート		A B C A B C A B C A B C	
3 学期	第5回定期試験	3. 太陽が動かす大気と水 1. 身のまわりの景観の成り立ち 2. 自然災害と人間	・エネルギー問題について考えさせる。 ・自然景観を理解する。 ・自然災害と対策を理解する。		①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート		A B C A B C A B C A B C	
履修にあたって		授業で指示された問題は必ず解けるようにする。 いつも「なぜ？」という疑問は持ち続け、自分で調べる。 問題集の問題は、完全に理解できるまで繰り返し解く。 定期試験、模擬試験の問題は必ず取って置き、間違えたところは必ず出来るようにする。						

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	保健体育・体育	単位	3	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース	1年果樹園芸科				
使用教科書	なし				
目標とする生徒の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・時間やルールを厳守し、率先して与えられた役割を確実にこなそうとする、責任感のある生徒。 ・運動の技能や知識を身につけ、高めていくために努力を継続することができる生徒。 ・積極的に活動に参加し、自己表現や他者への配慮などのコミュニケーションをとろうとする、信頼できる生徒。 				
評価の観点	<p>①【関心・意欲・態度】 時間やルールを守ることや、仲間とともに積極的に活動へ参加しようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 技能の向上のために、工夫したり、仲間と協力したりしているか。</p> <p>③【技能】 自己の身体を思い通りに扱い、正確な技能が発揮できているか。</p> <p>④【知識・理解】 技能が向上するための身体動作や運動の特性を理解し、知識を理解しているか。</p>				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、集合、整頓、列の増減、集団としての行動）	・基礎的な運動能力を身につける ・大きな声を出すとともに、迅速に集団としての協調的な動きができるようになる。	①観察 ②観察 ③テスト ④観察	A B C A B C A B C A B C
	第2回定期試験	・バレー（男子） ・ソフトボール（女子）	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
2 学期	第3回定期試験	・ペース走	・自己に適したペースを維持して走ったり、ペースの変化に対応して走ったりする。徐々に記録を向上させる努力をする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
	第4回定期試験	・マット運動（男子） ・ダンス（女子）	・マット運動 基本的な技や発展技をなめらかに安定して行う。技を構成し演技をする。 ・ダンス 仲間と踊る楽しさや喜びを味わい、表現力や動きの質を高めて、交流や発表ができるようにする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
3 学期	第5回定期試験	・サッカー（男子） ・バスケ（女子） ・体育理論	・サッカー、バスケ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ・体育理論 生涯豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を身につける。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
	検定資格（時期） 諸費用（予定）	なし			
	履修にあたって	チャイム前には整列をし、大きな声で挨拶・体操をすることで体育の授業は始まります。お互いに100%で授業に臨みましょう。			

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・保健	単位	1	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース		1年果樹園芸科				
使用教科書		現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート				
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> 健康問題に対して、課題解決をするために、自ら考え、発表したり記述したりできる生徒。 生涯にわたって健康を保持増進することができる知識を身につけ、それを活用することができる生徒。 				
評価の観点		<p>①【関心・意欲・態度】 健康問題に対し、興味・関心を持ち、個人であるいは仲間とともに積極的に課題解決をしようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 健康問題を解決するために、個人であるいは仲間とともに工夫したり、協力したりし、考えを見いだしているか。</p> <p>③【知識・理解】 健康問題やそれを解決するための知識を理解し、発言したり記述したりしているか。</p>				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 健康と意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣とその予防 食事と健康 運動と健康 休養・睡眠と健康 	<ul style="list-style-type: none"> 健康のとらえ方や病気、生活習慣の改善について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト 	<ul style="list-style-type: none"> A B C A B C A B C 	
2 学期	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法 日常的な応急手当 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症や薬物乱用、応急手当について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト 	<ul style="list-style-type: none"> A B C A B C A B C 	
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 欲求と適応機制 心身の相関とストレス ストレスへの対処 心の健康と自己実現 交通事故の現状と要因 交通社会における運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスやその対処の仕方、交通安全について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト 	<ul style="list-style-type: none"> A B C A B C A B C 	
検定資格(時期)		なし				
諸費用(予定)		なし				
履修にあたって		現在や将来の日常生活をよりよく生活をしていくために必要な内容を学習します。発言やグループワークなども積極的に行い、主体的に授業に臨みましょう。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	コミュニケーション 英語 I	単位	2	履修区分	必履修 ・ 必修 ・ 選択
対象学年・類型・コース	1年 食品化学科・果樹園芸科				
使用教科書	VISTA English Communication I (三省堂)				
目標とする 生徒の将来像	英語の文化における知識や考え方、世界の出来事、日本の状況を理解する 基本的な英語を使って、簡単な話を理解したり、聞き取ることができる 基本的な英語を使って、簡単な考えを書いたり、相手に伝えることができる				
評価の観点	①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④英単語テスト ⑤標準考査 ⑥提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1回定期試験	Pre-Lesson Get Ready!	辞書の使い方・英語学習方法 中学既習の文法事項の復習	①②③④⑤⑥	A B C
		Lesson 1 Kerama Blue	現在の出来事を理解表現する [be 動詞、一般動詞の現在形]		A B C
Lesson 2 Cool Japan	現在の出来事を理解表現する [疑問文、現在進行形]	A B C			
	第2回定期試験	Lesson 3 Mexican Dishes	過去の出来事を理解表現する [過去形、助動詞]	①②③④⑥	A B C
2 学期	第3回定期試験	Lesson 4 The Olympics	自分の考えを表現する [I think that-,SVO,SVOO,SVOC] 不定詞の使い方を学ぶ	①②③④⑤⑥	A B C
		Lesson 5 Baobabus in Madagascar	[to+動詞の原形(目的)等]		A B C
	第4回定期試験	Lesson 6 Toothbrushing in Edo	動名詞の使い方を学ぶ [-ing(すること)]	①②③④⑥	A B C
3 学期	第5回定期試験	Lesson 8 Motala and Landmines	時制の違いと使い分けを学ぶ [have+p.p- 現在完了形]	①②③④⑤⑥	A B C
		Lesson 9 Dick Bruna	関係代名詞を使った文を学ぶ [who, whichの主格、目的格]		A B C
		Lesson 10 Tsuji, the Great Pianist	関係副詞を使った文を学ぶ 今までの表現を用いて自分の ことを英語で相手に説明する [when, where, It is - for...]		A B C
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	実用英語技能検定(6月・11月・1月) : 希望者受験(進学希望者は入試の際に必要な場合あり、平成30年度～)				
履修にあたって	英語の辞書の使い方から、高校での英語学習について基本的なことを学ぶ 授業には必ず辞書を準備し、単語を調べるようにする				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	英語表現 I	単位	1	履修区分	必履修 ・ 必修 ・ 選択	
対象学年・類型・コース	1年 食品化学科・果樹園芸科					
使用教科書	BIG DIPPER English Expression I (三省堂)					
目標とする 生徒の将来像	基本的な英語の文法を身につけ、使うことができる 基本的な英語を使って、簡単な話を理解したり、聞き取ることができる 基本的な英語を使って、簡単な考えを書いたり、相手に伝えることができる					
評価の観点	①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④英単語テスト ⑤標準考査 ⑥提出物					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	Lesson 1	辞書の使い方・英語学習方法	①②③④⑤⑥	A B C	
		Lesson 2	英語の語順[SV-]を理解する		A B C	
		Lesson 3	英語の主語を理解する [人を表す代名詞、天候 I] 存在を表す文を理解する [There is/are-] 名詞について理解する [冠詞、数、動詞との一致]		A B C	
	第2回定期試験	Lesson 4	いろいろな種類の文を作る [肯定文、否定文、疑問文]		①②③④⑥	A B C
		Lesson 5	時制に合わせて文を作る [現在形、過去形、進行形]		A B C	
2 学期	第3回定期試験	Lesson 6	未来の予定や計画についての文を作る [will, be going to-]	①②③④⑤⑥	A B C	
		Lesson 7	完了形の使い方を理解する [have+過去分詞, had+過去分詞]		A B C	
	第4回定期試験	Lesson 8	助動詞の使い方を理解する① [can(能力), may(許可)]	①②③④⑥	A B C	
		Lesson 9	助動詞の使い方を理解する② [should(推量), 助動詞+have+過去分詞]		A B C	
3 学期	第5回定期試験	Lesson 10	今まで学んだ文法事項を使って、自分の考えを表現することができる	①②③④⑤⑥	A B C	
検定資格(時期) ・諸費用(予定)	実用英語技能検定(6月・11月・1月) : 希望者受験(進学希望者は入試の際に必要な場合あり、平成30年度～)					
履修にあたって	英語の辞書の使い方から、高校での英語学習について基本的なことを学ぶ 授業には必ず辞書を準備し、単語を調べるようにする					

教科・科目 農業 「農業と環境」(1年5組) 平成30年度シラバス

履修学年・学科等	1 学年	果樹園芸 科(系列)		単位数	4 単位	履修形態		全員履修		教科書名		実教出版	農業と環境
副教材等	自作プリント												
科目の目標	農業生物(作物)の育成と環境の保全についての体験的、探求的な学習を通して、農業及び環境に関する学習について興味・関心を高めるとともに、科学的思考力と課題解決能力を育成し、農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。												
学期	学習項目	学習形態	教科書のページ	学習内容(実験・実習・演習)				備考					
1 学期	・オリエンテーション「農業と環境」を学ぶ ・単元1: 私たちの暮らしと農業・農村	講義	p.6-11 p.18-21	この科目の目標 学習内容 人間と動植物のかかわり				・授業(含実験実習)の持ち物、バス運行等指示					
	・単元2: キュウリの栽培 生育特性と栽培計画立案 播種と発芽 種子の形態と構造 定植準備(畝・アーチ・ネット張り) 定植・生育診断と誘引・整枝	講義・実習	自作プリント他	生育特性と栽培計画立案 播種と発芽の条件・メカニズム				・第1回定期考査評価					
	キュウリの花と着花習性 地上部の管理 果実の肥大のしくみ 収穫 病害虫の防除 追肥 圃場の片付け	講義・実習		ウリ科野菜の特徴とキュウリの着花習性(単性花) 地上部の管理(誘引・腋芽処理) 果実の肥大のしくみ 収穫の方法と留意点 主な病害虫とその防除 追肥の意味と方法(含 化成肥料の成分計算) 圃場の片付け				・第2回定期考査評価					
	・単元2 キュウリの栽培 のまとめ	講義・演習		キュウリ栽培のまとめ(小テスト)									
2 学期	・単元3 アブラナ科野菜の栽培と加工 ハクサイの特性 栽培計画立案 播種 畝たてと元肥の施用 ハクサイの品種特性と定植	講義・実験実習	p.146-151 (ハクサイ) p.152-159(ダイコン)	アブラナ科野菜の特徴 ハクサイの特性 栽培計画立案 播種の方法と留意点 畝たての方法と元肥の意味・施用方法 ハクサイの品種特性と定植 定植準備・播種・定植・間引き・土寄せ・地上部・地下部の管理、施肥、病害虫防除									
	ダイコンの栽培の計画立案 ダイコンのたねまきの時期と仕方 間引き、土寄せ、除草・追肥 初生皮層のはく脱、根部の肥大 収穫	講義・実験実習		ダイコンの栽培の計画立案 ダイコンのたねまきの時期と仕方 間引き、土寄せ、除草・追肥 初生皮層のはく脱、根部の肥大 収穫				・第3回定期考査評価					
	ハクサイ外葉の発達と役割 ハクサイ、ダイコンの病害虫 結球葉の分化と結球の仕方 花芽分化とトウ立ち 収穫の適期と方法 収穫、栽培の記録のまとめと整理 野菜販売体験 肥料の種類と追肥 収穫物の加工と保存方法 結球の仕組み(解剖) ハクサイの加工と保存	講義・実験実習		ハクサイ外葉の発達と役割 ハクサイ、ダイコンの主要病害虫 結球葉の分化と結球の仕方、外葉との違い 花芽分化・トウ立ちの仕組みと栽培時期 収穫適期の把握と収穫方法 収穫、栽培の記録のまとめと整理 野菜販売体験(ふれあいフェスタ笛吹) 肥料の種類と追肥、肥料計算 収穫物の加工と保存方法 結球の仕組み(解剖)(外葉・結球葉の形態・成分の比較) ハクサイの加工(塩漬け)と保存方法				・第4回定期考査評価					
	・単元3 アブラナ科野菜の栽培と加工のまとめ	講義・演習		アブラナ科野菜の栽培と加工のまとめ(小テスト)									
3 学期	・単元1(つづき): 私たちの暮らしと農業・農村 農業と自然、社会とのかかわり 農業の多面的機能、地域の活性化	講義・演習	p.22-32	農業と自然、社会とのかかわり 農業の多面的機能、地域の活性化									
	・プロジェクトのまとめ(キュウリ・ハクサイ)		自作プリント他	プロジェクトのまとめ(キュウリ・ハクサイ)				プロジェクトのまとめ(PPT作成等)					
	・単元4: 作物の特性と栽培技術、栽培環境 作物栽培の基礎理論 作物栽培を取り巻く環境と管理 ・単元4のまとめ	講義・実習・演習	p.54-70(作物栽培の基礎) p.71-100(作物と環境)	作物の特性と栽培技術、栽培環境 作物栽培の基礎理論(生活の中の作物・分類・作物の一生・種子発芽・成長・繁殖・作型) 作物を取り巻く環境(大気・土壌・生物)と管理 作物の特性と栽培技術、栽培環境まとめ(小テスト)									
	・単元5: 環境調査と環境保全 基礎となる環境調査 環境保全 単元5のまとめ	講義・演習	p.206-284	環境調査と環境保全 基礎となる環境調査 環境保全 環境調査と環境保全まとめ(小テスト)									
単元6: 学習のまとめと学校農業クラブ活動	講義・演習	p.287-296	学校農業クラブ活動の意義と方法 農業学習と学校農業クラブ活動 科目「農業と環境」を学んで				第5回定期考査評価						
評価方法	定期試験(年5回)と授業評価(単元ごとの到達度小テスト、提出課題、態度等)を観点別に総合評価する。												

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		農業情報処理		単位	2	履修区分	必修修 必修 ・選択
対象学年・類型・コース		1年果樹園芸科					
使用教科書		実教出版 「農業情報処理」 「Microsoft Office 2013」					
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・情報及び情報技術の知識と技術を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方、有益な活用方法を身につける。 ・高度情報化社会のマナーやモラルについて学び、情報メディアがもたらす影響や役割について理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を身につける。 					
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの問題や農業に関する諸課題を解決するために、情報及び情報技術を活用し、情報処理活動に主体的に取り組むことができる。 ・情報技術の役割や影響、諸課題に専門的な考え方を生かして思考を深め、適切に判断、効果的に表現することができる。 					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と情報 ・情報モラルとセキュリティー ・日本語ワードプロセッサの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化社会におけるメディアの仕組みと生活との関わり ・情報モラル ・コンピュータの基本操作とキータッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査中に実技試験とペーパー試験を行う。 			
	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワークの仕組み ・情報セキュリティー管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報のセキュリティーとその対策 ・文書作成処理の基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査中に実技試験とペーパー試験を行う。 			
2 学期	第3回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・農業分野における情報の活用 ・表計算ソフトの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の自動制御とデータ管理の重要性 ・表計算ソフトの基本操作 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査中に実技試験を行う。 			
	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトのデータ管理と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査中に実技試験を行う。 			
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト学習のまとめと発表 ・プレゼンテーションソフトの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことを生かしたデータ処理の実際、活用能力の養成 ・情報発信する力、表現する力の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目「農業と環境」で学んだ成果をデータにしてプロジェクトを作成し、各自が発表する。 ・生徒同士の相互評価を加えて評価する。 			
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		必要に応じて情報処理検定(ワープロ)					
履修にあたって		<ul style="list-style-type: none"> ・授業は情報処理室でのコンピュータ演習を中心とする。 ・試験はペーパーとコンピュータの実技で行う。 ・第5回定試は、試験の代わりにプレゼンテーション発表を評価する。 					

教科・科目		農業・果樹	単位数		必修修	必修	選択
学年・系列・コース		1年・果樹園芸科					
使用教科書		果樹(実教出版)	副教材				
目標とする生徒の将来像		地域の基幹産業である果樹栽培の担い手として、地域のリーダーとなり果樹産業の発展に貢献する。					
評価の観点		①関心・意欲・態度:授業への準備が整っており、話を聞く姿勢や態度が良好で集中して意欲的に取組める。 ②思考・判断・表現:教科書を理解して読みやすく音読できる。ノートへの記載や資料が整理されている。調査研究内容をレポートにまとめ考察し発表することができる。果樹の生育状況を判断し適切な管理方法を理解している。 ③技能:年間をととして果樹の栽培技術や生育状況にあわせた管理技術を習得している。 ④知識・理解:果樹に関する専門用語や生理生態の基礎を理解できる。果樹栽培の管理方法を理解している。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法		自己評価
1 学期	第1 回 定期 考査	・果樹の種類と分類 ・受粉受精	・果樹の分類とその特徴を理解する ・教材である桃の構造と名称が分かる ・果樹の受粉受精の特性を理解できる ・果実肥大調査の方法と測定器具の扱いが正確にできる ・調査データを適正に記録管理する力	○定期考査 0% 10% 5% クラブ活動 ○技能 5%	7 ○取組姿勢 ○提出物 ○農業 10%	A・B・C A・B・C A・B・C	
	第2 回 定期 考査	・着果調節 ・着色管理 ・収穫調整	・桃の品種特性を理解できる ・果樹の適正着果数と調整方法が理解できる ・果樹の着色管理とその効果が理解できる ・果樹の収穫適期を判断し収穫選別方法が分かる ・測定データをグラフ化し考察する力	○定期考査 0% 10% 5% クラブ活動 ○技能 5%	7 ○取組姿勢 ○提出物 ○農業 10%	A・B・C A・B・C A・B・C	
2 学期	第3 回 定期 考査	・果実の発育 ・果樹の繁殖	・果実の生育特性が理解できる ・果樹の繁殖方法とその特徴が理解できる ・桃の繁殖法(芽つぎ)を習得する	○定期考査 0% 10% 5% クラブ活動 ○技能 5%	7 ○取組姿勢 ○提出物 ○農業 10%	A・B・C A・B・C A・B・C	
	第4 回 定期 考査	・土壌管理	・土壌表面の管理法とその特徴が分かる ・果樹に適した土壌構造とその特徴が理解できる ・果樹の生育に必要な肥料要素と効果が分かる ・適正施肥料を計算する力	○定期考査 0% 10% 5% クラブ活動 ○技能 5%	7 ○取組姿勢 ○提出物 ○農業 10%	A・B・C A・B・C A・B・C	
3 学期	第5 回 定期 考査	・結果習性 ・整枝剪定	・果樹の結果習性が分かる ・果樹の仕立て方とその特徴を理解できる ・果樹の整枝剪定の目的と方法を理解できる	○定期考査 0% 10% 5% クラブ活動 ○技能 5%	7 ○取組姿勢 ○提出物 ○農業 10%	A・B・C A・B・C A・B・C	
検定資格(時期)		特になし					
諸費用(予定)							
履修にあたって		・付属農場での授業が主であるため、連絡がないかぎり、座学(教科書、ノート、筆記用具)・実習(実習服・帽子など)の両方の準備をして来ること。 ・特に実習では、農機具類を使用する場面が多く安全第一、怪我防止等には十分考慮する必要があるため、職員の説明をしっかりと聞くことや指示には絶対に従うこと。 ・農場への移動に時間がかかるため、授業が速やかに開始できるよう迅速に行動すること。					

教科・科目		農業科・植物バイオテクノロジー		単位数	2	◎ 必修 ◎	◎ 必修 ◎	選択
学年・系列・コース		1年5組・果樹園芸科						
使用教科書		図解 植物バイオテクノロジー(実教出版)	副教材	ワークシート・本校式培地作成資料・土壌観察キット等				
目標とする生徒の将来像		植物に関するバイオテクノロジーの知識と技術を習得させ、植物体の特性とバイオテクノロジーの特質を理解させるとともに、農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。						
評価の観点		①関心・意欲・態度:植物の発生の原理について興味を持ち、意欲的に実験や観察を行う態度。 ②思考・判断・表現:実験より植物生理学上の原理を考え、実際の培養実験に反映することができる。 ③技能:無菌操作を適切に行い、コンタミネーションを起こすことなく培養できる。 ④知識・理解:植物生理学的な知識を身につけ、植物の発生についての専門的な知識をつける。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法		自己評価	
1 学期	第1 回 定期 考査	植物バイオテクノロジーの基礎 植物に関する実験 細胞の観察 (表皮、果肉、茎の組織)	中学校レベルの植物に関する知識の定着 植物細胞の構成と特徴を理解する		① 授業態度 25 ② 定期考査 15 ③ 定期考査・実験 20 ④ 定期考査 40		A・B・C A・B・C	
	第2 回 定期 考査	植物バイオテクノロジーの基礎 細胞の観察 (細胞分裂の観察) 遺伝子・DNA DNAの観察 発芽の条件	細胞分裂の過程と原理を理解する。 DNAを実際に観察し、生命のつながりを理解 発芽の実験を行い、発芽率を計算する		① 授業態度 25 ② 定期考査・実験 15 ③ 定期考査・実験 25 ④ 定期考査 30		A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
2 学期	第3 回 定期 考査	植物バイオテクノロジーの基礎 植物が育つ条件 土壌について pH・EC・土性分類・糖度	植物の生育に必要な物質や条件を理解する 作物の育つ条件に照らし合わせて、農場の土 がどのような性質を持っているか、また、どうすれ ばより効率的に作物を育てられるか考える		① 授業態度 25 ② 定期考査・実験 30 ③ 定期考査・実験 25 ④ 定期考査 20		A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
	第4 回 定期 考査	植物組織培養の基礎 植物栽培に用いる単位 a,ha,寸,尺,町,反 ポリ鉢の面積 肥料の施肥量の計算 作物に必要な養分	栽培に必要な長さ・単位を理解する。 畑の面積と肥料の成分量から適切な施肥量を 計算できる。 作物の育成に必要な養分とその量を理解する		① 授業態度 25 ② 定期考査・プリント 35 ③ 定期考査・計算 30 ④ 定期考査 10		A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
3 学期	第5 回 定期 考査	植物組織培養の基礎 作物に必要な養分 無菌操作 組織培養の手順 MS培地の調整 花芽の観察 モモ・アンズの花芽の観察	適切な無菌操作を行い、MS培地を調整できる 調整したMS培地を用いて、高山植物の継代 培養を行い、継続して培養できる モモとアンズの花芽を観察し、春の訪れを感じる		① 授業態度 25 ② 定期考査・実験 25 ③ 定期考査・実験 25 ④ 定期考査 25		A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
検定資格(時期) 諸費用(予定)		必修では無いが、授業内で「生物分類技能検定」の紹介を行う。 3・4級は任意で受験することができる(3級5140円、4級3080円) 試験は11月中旬 また、2年・3年次に取得を目指す、日本農業技術検定の対策・紹介も行う。						
履修にあたって		本科目は、植物バイオテクノロジーの基礎として、培地の調整までの技術の定着を目指す。3年次の選択科目 である植物バイオテクノロジーでは実際に培養にはいるため、それまでの基礎を定着させる。また、本校のかつ ての科目である園芸実験の内容も扱う。作物育成の上での基礎となる土壌や植物生理学について学び、これ からの農業科の学習の上で基礎となる知識を定着させる。 実験・培養は無菌状態で行うため、実験室の使い方を含め、態度や礼儀、マナーについても指導を行う。						

教科・科目	芸術 音楽 I	単位数	2
学年・系列・コース	普通科・農業科 1 学年 総合学科 2 学年		
使用教科書	MOUSA 1 教育芸術社	副教材	ミュージック・ノート
目標とする生徒の将来像	音楽 I では、生涯にわたって音楽に親しんでいくための基盤となる力を育てたい。そのために第一は、音楽の授業において自ら学ぶ態度と方法を身につけることを目指す。第二に、自分の知る曲や興味のあるアーティストだけではなく、世界の様々な音楽に親しませ、広い音楽的視野を身につけさせることを目指す。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。 ・創意工夫を生かした表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。 ・音楽の基本的な知識を理解し、音楽表現の向上に結びつける。 		

学期	期間	単元・教材	主たる目標・評価のポイント	評価方法
1 学期	4	校歌 やさしさに包まれたなら 少年時代	様々な表現方法による歌唱活動に関心をもち演奏効果を生かして歌うことに主体的に取り組む。	校歌（詩）をノートに写し提出
	5	バロックまでの音楽 グレゴリオ聖歌 合奏 協奏曲ほか	様々な時代の音楽や作曲家の特徴、楽器の音色等表現上の効果に関心をもち、その文化的・歴史的背景を踏まえて鑑賞することに主体的に取り組む。	鑑賞の記録
	6	音符と休符 音名と譜表	音楽の基本的知識について理解し、音楽表現の興義に結びつける。	筆記試験
1 学期	7	三味線 さくらさくら お江戸日本橋 イタリア歌曲 Caro mio ben O sole mio	三味線の音色や奏法の特徴を生かして、技能を身につけ表現を工夫する。 曲想と歌詞の内容、楽曲の背景と関わらせて、イメージを持って音楽表現するために、必要な歌唱技能を身につけ、創造的に表現する。	実技試験 実技試験
	9	日本の歌から 故郷 この道ほか	曲想と歌詞の内容、楽曲の背景との関わりに関心をもち、それらを生かして歌うことができる。	発表
	10	古典派の音楽 モーツアルト作品	様々な時代の音楽や作曲家と、その文化的・歴史的な背景を踏まえて鑑賞する	鑑賞の記録
2 学期	11	音名、演奏の形態	音楽の基本的知識について理解し、音楽表現の向上に結びつける。	筆記試験
	12	楽典	名楽器の音色や奏法の特徴を生かし、仲間と協調性や積極性をもち、完成度の高い音楽表現を工夫する。	発表
	月	合奏 リコーダーほか		
3 学期		ドイツ・リート 野ばら	曲想と歌詞の内容、楽曲の背景と関わりに関心をもち、それらを生かして歌うことができる。	実技試験
		リズム テキスト	音楽を形作っている要素に興味をもち、理解・表現することができる。	実技試験
		ロマン派以降の音楽 シューベルト作品	様々な時代の音楽や作曲家と、その文化的・歴史的な背景を踏まえて鑑賞する。	鑑賞の記録

履修にあたって	○音楽を形づくっている要素が楽曲を特徴づけるのにどのような役割をしているかを、創作や鑑賞活動を通して理解する。
諸費用：500 円	○実技体験を通して、表現の向上や意欲を培う。
ファイル・実技準備費	

教科・科目		芸術 美術 I	単位数	2	
学年・系列・コース		普通科・農業科1学年 総合学科2学年			
使用教科書		美術1 光村図書	副教材		
目標とする生徒の将来像		<p>○幅広い創造活動を通して、楽しく美術に取り組み、美術を愛好する意欲と態度を育てる。</p> <p>○観察力及び表現力を養い、基本的技能を身につけ、感性や想像力を磨き表現する力を養う。</p> <p>○自然や美術作品についての基礎的な理解をし、美しさを感じ取る鑑賞力を身につける。</p>			
評価の観点		<p>○美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p> <p>○感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>○創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。</p> <p>○美術の働きや美術文化、美術作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。</p>			
学期	期間	単元・教材	主たる目標・評価のポイント		評価方法
1 学期	4 5 6 月	絵画「油彩・自画像」 (24-25) 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 多様な自画像の作品を鑑賞し、主題や表現の効果を感じ取る。 主題設定及び構図を決める。 設定した主題が表出するように工夫する。 アイデアスケッチで構想を練る。 油絵の特徴と技法を理解し、素材の違いを表現できているか。 油絵作品の美しさを理解しているか。 作品意図を言葉で伝えることができるか。 		下絵提出 作品提出 ワークシート提出 発表
	7 月	デザイン「ポスター」	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿ったポスターを提案する。 彩色にあたって、バランスよく配色する ムラのないように色を塗る 作品意図を言葉で伝えることができるか。 		作品提出 ワークシート提出 発表
2 学期	9 10 11 月	彫刻「石膏彫刻・塊から掘り出す」 (30-31) 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の持つイメージを理解し、自分なりに表現する。 作業工程を理解し、素材の特性を生かした独創的な表現になるよう工夫する。 作品意図を言葉で伝えることができるか。 		作品提出 ワークシート提出 発表
	1 2 月	絵画「油彩・静物画花」 身近なものを描く (8-9) 植物を描く (10-11)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書から描きたいイメージを見つけ、そのイメージを意識して描く。 光の陰影や、面等を把握して形体を表現する。 友人の作品をみて良さをみとめ、自分への意欲を高める。 		作品提出 ワークシート提出 感想文提出
	履修にあたって		<ul style="list-style-type: none"> 筆記用具、教科書、指示されたものは必ず持ってくる。 提出期限は必ず守る。守らないと評価できないため単位がもらえない。 授業態度はとてよく見られているので、大きな声で指導されないからといって油断しない。 片付けは、自分の道具だけではなく、作業した場所は必ず掃除する。 		

教科・科目	芸術 書道 I	単位数	2
学年・系列・コース	普通科・農業科1学年 総合学科2学年		
使用教科書	書 I 光村図書	副教材	
目標とする生徒の将来像	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育む。書道の様々な活動を通して、生活に根ざした「書」を意識し、実用的な書を身につけることで、芸術的な能力を伸ばす。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自発的な意図から作品の効果を高める工夫をし、取り組む。また、意欲的・主体的に活動を行い構想から完成までの充実感や表現する喜びを味わおうとする。 ・ 基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を把握している。 ・ 意図に基づく表現の構想と工夫がされている。 		

学期	期間	単元・教材	主たる目標・評価のポイント	評価方法
1 学期	4	書へのいざない 「書道の世界へ」	<ul style="list-style-type: none"> ○書写と書道の違いを理解できているか。 ○文房四宝の役割を理解しているか。 ○紙面の空間・墨量を意識できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード)
	5	漢字の書の学習 「漢字の書の世界へ」	<ul style="list-style-type: none"> ○古典の臨書学習により基本的な点画や線質の表し方、執筆法・運筆法を学ぶ。 ○それぞれの作品の特徴・時代・人物を区別できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品)
	6	「楷書の古典を学ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> ○筆使いがしっかりと理解できているか。 ○紙面への工夫が凝らされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品)
	7			<ul style="list-style-type: none"> ○提出物(名前カード・作品・相互評価プリント)
2 学期	9	漢字の書の学習 「書道パフォーマンスとは」 「行書の古典に学ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> ○行書の筆法・くずし方を理解しているか。 ○古典の鑑賞により多様な表現方法・字形の崩し方を理解しているか。 ○楷書との入筆の違いを理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品)
	10		<ul style="list-style-type: none"> ○筆順を理解しているか。 ○それぞれの古典の特徴・時代・人物について理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品・相互評価)
	11	「半切創作作品制作」	<ul style="list-style-type: none"> ○事前の準備がしっかりとされているか。 ○紙面への工夫が凝らされているか。 ○学んだ用筆法がしっかりと使われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品)
	12	生活の書 「くらしの中の書」 篆刻の学習	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面に対しての構成が工夫されているか。 ○プリント課題への取り組み。 ○落款について、その用途・効果について理解しているか。 ○篆刻の形状にあうものを制作できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品・発表・相互評価プリント) ○参加状況・態度・提出物(名前カード・作品)
3 学期	1	仮名の書の学習 「仮名の基本・いろは歌・高野切第一種を学ぶ」	<ul style="list-style-type: none"> ○成立や種類について理解しているか。 ○仮名の線、運筆について理解しているか。 ○古筆の表現方法を学習し、空間の使い方、文字の大小について理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度・提出物(名前カード・作品・ペーパーテスト)
	2			<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度・提出物(名前カード・作品)
	3 月	漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに身に付けた筆法・表現方法を生かして、身近な文書を書芸術として表現できるか。 ○自分の考えをしっかりと持っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度・提出物(名前カード・作品・発表・相互評価プリント)

履修にあたって	○習字と書道の違いを理解することで、「文字」に対する芸術としての視点、多角的な見方を学んでもらいたい。
諸経費:1,000円 印材・カレンダー等	○手書き文字は生涯、必要不可欠である。そのため、文字を書く事の楽しさを覚えてもらうと同時に、手書き文字には自分の心情が表れるということを学んでもらい、手書き文字の大切さを学んでもらいたい。